

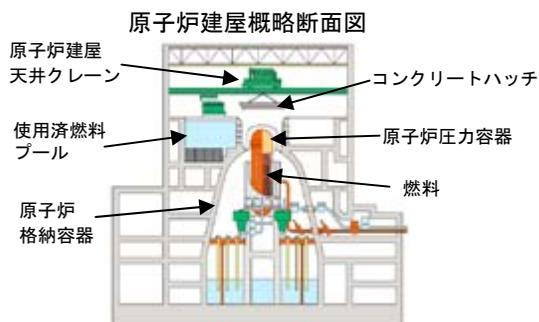
福島第二原子力発電所からのお知らせ（平成25年9月号）

福島第二原子力発電所1～4号機は、安定した冷温停止を維持しています。発電所の最新状況や、様々な取り組みをお知らせします。

2号機の原子炉開放作業が完了しました

- 原子炉から使用済燃料プールへの燃料移動作業に先立ち、原子炉開放作業を8月26日より開始し、9月9日に完了しました。
- 開放作業は、原子炉建屋内の天井クレーン（吊上荷重125 t）を使用して、上層からコンクリートハッチ→原子炉格納容器の蓋→原子炉圧力容器の蓋→蒸気乾燥器→気水分離器の順に、事前に計画した手順により慎重に取り外しを行いました。
- 9月3日に実施した原子炉圧力容器の蓋（重さ約90 t）の取り外し作業では、同容器と固定している92個のナット（直径約22cm、厚さ約20cm、重さ約30kg）を専用の装置ですべて取り外した後、天井クレーンで吊り上げて原子炉脇の所定の場所まで移動させました。

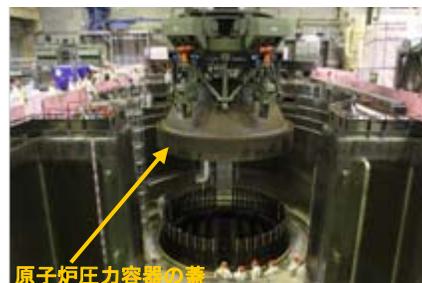
○原子炉開放作業の様子



コンクリートハッチの取外作業
（平成25年8月26日撮影）



原子炉格納容器蓋の取外作業
（平成25年8月27日撮影）

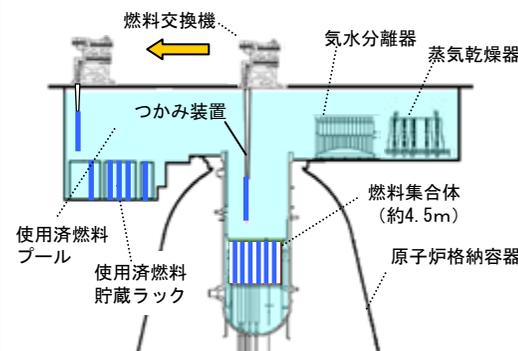


原子炉圧力容器蓋の取外作業
（平成25年9月3日撮影）

2号機の燃料移動作業を開始しました

- 当所では、設備の維持管理の簡素化の観点から、原子炉に装荷されている燃料を使用済燃料プールへ移動することとしており、2号機では、9月17日より原子炉から使用済燃料プールへの燃料移動作業を開始しました。
- 燃料移動にあたっては、事前に手順をコンピュータにプログラミングして自動制御で行いますが、作業中は、作業現場（燃料交換機操作室、燃料交換機上）に専任の人員を配置し、連携を取って確認し合いながら764体ある燃料を1体ずつ移動しています。また、中央制御室では、常時、原子炉の未臨界監視など作業全体の監視、確認を行っています。
- 燃料移動については、9月20日に、「福島県原子力発電所の廃炉に関する安全監視協議会」による現地調査が行われました。

○燃料移動について



燃料移動作業の様子（使用済燃料プール）
（平成25年9月19日撮影）

- ①燃料交換機に装着された燃料つかみ装置を原子炉内の燃料集合体位置へ降下する。
- ②燃料つかみ装置によって燃料集合体を吊り上げる。
- ③吊り上げた燃料集合体を、使用済燃料プールへ水中移動し、同プール内の使用済燃料貯蔵ラック内へ収納する。

○燃料移動の作業計画

2号機	原子炉開放	9/9完了
	燃料移動	9/17～10/11（予定）



「福島県原子力発電所の廃炉に関する安全監視協議会」による現地調査（平成25年9月20日撮影）

技術力強化訓練の活動紹介 「ケーブル接続チーム」

- 前月号でもお知らせした、4つのプロジェクトチームによる技術力強化訓練を、本年7月より実施していますが、今回は、ケーブル接続チームの活動内容について紹介します。
- ケーブル接続チームは、設備を保全する部門のメンバー28名（4班）で構成され、年間で各班あたり約20回の訓練を計画的に行うこととしています。
- 津波により浸水したモータを取り替えた後に電源を供給するための作業について、以下の実技訓練を行っています。有事の際の電源をすみやかに確保できるように訓練に励んでいます。
 - ケーブル・資機材の運搬
 - 電源盤から現場機器までのケーブル布設
 - ケーブルの端末処理
 - モータの起動・停止スイッチへの接続 等



上の写真は、ケーブルを引き出すためにドラムを吊り上げた後、ケーブル引き出し、布設する訓練を行っている様子です（平成25年7月19日実施）。

技術力強化訓練について

- 当所は、東北地方太平洋沖地震に伴う津波により、電源盤やモータ等が浸水し使用出来ない状況でしたが、協力企業の皆さまにご協力いただき、復旧にあたった結果、平成23年3月15日までに全プラントを冷温停止することができました。
- 本年7月からは、震災時の経験から得た教訓をもとに、4つのプロジェクトチーム（モータ取替、ケーブル接続、ポンプ復旧、ガレキ撤去）を結成し、機器が壊れた場合でも当社社員単独で対応できる技術力の習得訓練を、計画的に行っています。



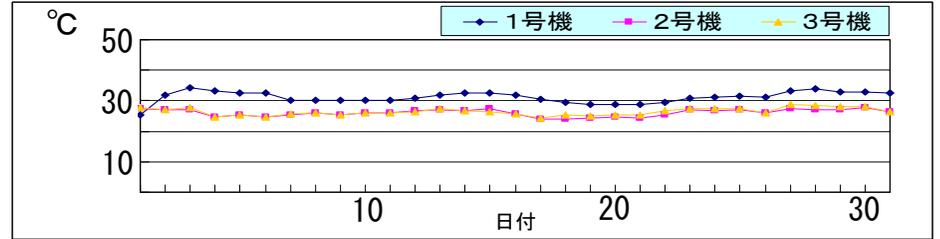
被災当時（平成23年3月13日）、電源復旧のため、協力企業の皆さまと当所所員総勢約200名で総延長約9kmの仮設ケーブルを布設しました。

【プラントデータ】

燃料の冷却状況（8月分）

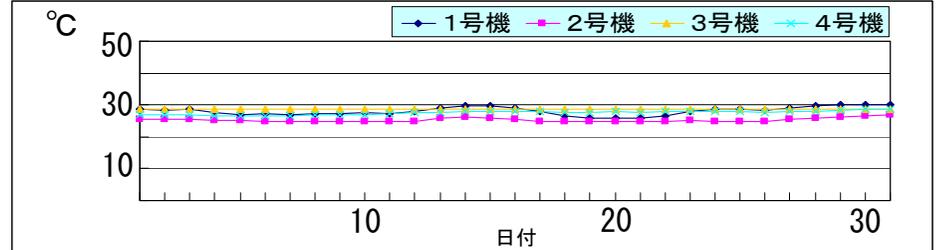
原子炉水および使用済燃料プール水の温度は、約30℃程度で安定して推移しており、燃料の冷却を維持しています。

【原子炉水温度】



4号機は平成24年10月24日までに原子炉内から764体の燃料すべてを取り出し、使用済燃料プールへ移動しました。

【使用済燃料プール水温度】



発電所敷地周辺および構内の空間放射線量率

発電所敷地境界付近の空間放射線量率（1時間あたりの放射線の量）を連続で測定・監視し、当所に起因する変動がないことを確認しています。その状況は当社ホームページでもご覧いただけます。

<当社ホームページ><http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/f2/index-j.html>



- : 8月31日（午前9時）測定
- : 8月12日～21日測定
- 単位：マイクロシーベルト毎時
- ※マイクロシーベルト=ミリシーベルトの1,000分の1



モニタリングポスト (MP)

福島第二原子力発電所は、引き続き安定した冷温停止を維持してまいります。